

広報委員会
(第24期 第2回)
議事要旨

1. 日時 平成30年4月3日(火) 12:30~13:20
2. 場所 日本学術会議 5階 5-C(1) 会議室
3. 出席者 渡辺委員長、町村副委員長、大倉幹事、伊藤委員、三成委員、
荒川委員、松宮委員、上田委員、嶋田委員、辻委員、橋田委員、
山川委員
(ビデオ) 渡辺芳人委員、岩崎委員、隠岐委員

4. 配布資料

- 資料1 広報委員会(第1回) 議事要旨案
- 資料2-1 「学術の動向」編集分科会報告資料
- 資料2-2 ホームページ編集分科会報告資料
- 資料2-3 国際発信推進分科会報告資料

5. 議事

(1) 議事要旨の確認について

- ・ 前回議事要旨が確認された。

(2) 各分科会からの報告と問題提起

- ・ 各分科会委員長より、現在の分科会の審議状況、課題等について説明を行い、意見交換が行われた。

① 「学術の動向」編集分科会について

○伊藤委員から、資料2-1を元に以下の通り説明が行われた。

- ・ 「学術の動向」の今後の課題は、読者拡大と内容の充実。若い人に読みやすいものにしたい。
- ・ この雑誌がどういう雑誌かという哲学をもって編集体制をつくっていきたい。
- ・ 「学術の動向」を発行している日本学術協力財団では、経営的な感覚も必要であるという観点から、経営企画委員会を設置し、高校や大学でも購読してもらえるように読者層の拡大の方策を検討している。
- ・ 今後、内容を充実させてからにはなるが、ジャーナリストの目線で意見をもらうような試みも検討予定。

○委員からの意見は以下の通り。

- ・ 現在、J-stageでは発行の4か月後から無償で読めるようになっている。発行直後は有償で購読できるようにするなど、一部有償化を検討してはどうか。
- ・ 若い人に読みやすいものにするというのは全くその通りだが、表現

を変えて分かりやすくすると言っても、修正を依頼する時間がない。編集後記を書くタイミングに原稿ができていない。メ切を早めてはどうか。

- ・ 内容を編集委員会の役員のみでチェックするのは限界がある。問題のあるものを世に出してしまう可能性もあり危険。プロにチェックしてもらおう体制を検討してはどうか。
- ・ 表面的な内容だけで終わっている特集もある。専門家として、批判や疑問を呈するだけでなく、踏み込んだ内容にしてもらいたい。

②ホームページ編集分科会について

○三成委員から、資料 2-2 を元に以下の通り説明が行われた。

- ・ 資料 2-2（ホームページ編集分科会の議事要旨案）の通り、第 1 回の分科会において、現在のホームページは会員・連携会員のためのページになっている、もっと一般の方に見やすいものにするためにはどのようにしたらよいかということで意見交換を行った。論点は、資料にある通りだが、提言等が現在、期・年別のグルーピングしかされておらず、テーマごとの提言を探しにくい。こういったグルーピングも本分科会で今後検討していきたい。
- ・ タイムリーにアップしたい情報についての編集体制も、本分科会で検討していきたい。

○委員からの意見は以下の通り。

- ・ (提言のテーマ別のグルーピングについて) キーワードをいくつかきちんと入れればホームページ内で検索可能ではないか。

○上記の意見について、三成委員より以下の発言があった。

- ・ すべてをグルーピングするというわけではない。ただ、重要な課題について一定のグルーピングをし、一般の人に見やすい形にすることは必要だと考える。今後分科会で検討させていただきたい。

③国際発信推進分科会について

○隠岐委員から、資料 2-3 を元に以下の通り説明が行われた。

- ・ 本分科会では、現在英語版パンフレットの内容を検討している。1 月の第 1 回分科会で内容について議論した。次回分科会で今回完成した日本語版の内容をどのように反映させるか等を検討予定。
- ・ 英語版パンフレットの審議が終わり次第、英語版ホームページの内容について検討していきたい。その際はホームページ編集分科会と連携してすすめていきたい。

(3) その他

- ・ 前回委員会でも発言のあった SNS の活用については、ホームページ編集分科会で検討することになった。
- ・ 次回（第 3 回）は 9 月～10 月を目途に開催することとなった。

(以上)